

果がある。柔道でも 13 時間を超えたところで試合が劇的に変化したと元東京女子体育大学の本村先生もおっしゃっていた。年間計画の立て方を工夫することで、より深い学習につながっていくと思われる。

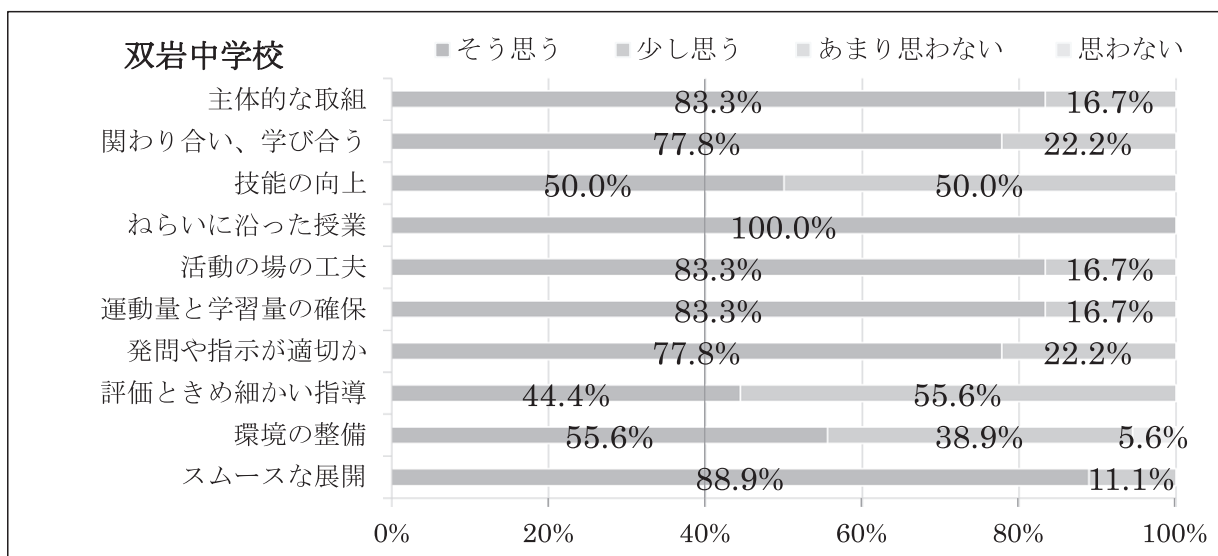
けがをさせてはいけないので、安全指導を含め、教師主導型での展開が前半は特に多くなると思われるが、今日の先生のように思考させる場面や子どもたち同士の関わりを豊かにするような進め方をより多く取り入れてほしいと思う。

今後の学習指導要領の改訂では、これまでの「知識・技能」が一つのくくりとなり、「思考力・判断力・表現力等」、そして「学びに向かう力・人間性等」という3つの面で学力を規定していくことになる。他教科では「学びに向かう力・人間性等」については、取り入れるのは難しいのではないかという話を聞いている。保健体育は、これまでの「態度」の内容が「学びに向かう力・人間性等」にあてはまると解釈され、取り入れられるだろうと言われている。

本日の先生の授業は本当に素晴らしいものであった。改めて先生の努力・授業に対して拍手を送りたいと思う。

5 成果と課題

- 生徒たちが思い切り技を打ちこむことができていた。女子生徒でも簡単に扱える簡易竹刀の使用は、活動の活性化につながり、技を行う上でも有効であった。
- 簡易竹刀の使用により、生徒たちが剣道への興味・関心を高めることができた。授業のユニバーサルデザイン化を目指すうえでも有効であった。
- 学習カードや得点表を工夫することにより、友達と協力しながら技を工夫したり、協力して練習や試合を行ったりすることができた。
- 簡易竹刀と竹刀の活用法及びその使用割合について考えていく必要がある。小学生用の軽い竹刀を用いるなど、段階的に竹刀を用いる時間を長くし、最終的には竹刀を用いて攻防を楽しむことができるのが理想である。
- 課題解決に向けた話し合い活動では、生徒同士で話し合う内容の焦点を明確にすることで、時間の有効活用や理解の向上につなげたい。また、技がうまくいかなかったときに、課題解決に向けた時間を確保できるようにしたい。



I 授業参観者によるアンケート 双岩中学校

	そう思う	少し そう思う	あまり 思わない	思わない
1. 生徒は、学習に主体的に取り組むことができていた。	15	3	0	0
2. 生徒同士で関わり合い、学び合う学習ができていた。	14	4	0	0
3. 技能の向上が見られた。	9	9	0	0
4. 本時のねらいが明確で、ねらいに沿った授業が展開されていた。	18	0	0	0
5. 活動の場の工夫ができていた。	15	3	0	0
6. 運動量や活動量が十分に確保されていた。	15	3	0	0
7. 教師の発問や指示の言葉が適切であった。	14	4	0	0
8. 適切な評価がなされ、個に応じたきめ細やかな指導がなされていた。	8	10	0	0
9. 学習環境が整備されていた。(礼法が身についていたか。)	10	7	1	0
10. 学習習慣が身に付き、スムーズな授業展開がなされていた。	16	2	0	0

II 今日の公開授業・研究協議等から、どのようなヒントを得ることができたか。

- ・ 簡易竹刀と竹刀の活用法及びその使用割合について参考になった。「竹刀→簡易竹刀」より「簡易竹刀→竹刀」への移行のほうが自然ではないかと感じた。
- ・ 教具の工夫(簡易竹刀の使用)は有効であった。簡易竹刀の活用によって恐怖心も抵抗もなく練習に取り組めていた。試合を楽しむという面でも効果的で、特に女子生徒にとっては良かったのではないかと思う。授業のユニバーサルデザイン化を目指す上でも大変有効であった。
- ・ 従来の剣道指導の枠をいったん壊し、生徒に活動意欲をもたせていた。簡易竹刀を活用することで剣道に対するイメージを変えることができ、楽しみながら学習できていた。剣道の入口の段階を知ることができたのではないか。
- ・ 授業準備の大切さや、正しい知識をもち、段階を追って指導していくことの大切さを改めて感じた。
- ・ ICTの活用と指導時の声、支援の言葉のタイミング、助言の大切さを学んだ。
- ・ 明確な目標設定、学習カードの工夫など今後に生かせる内容が多くあった。また、学習訓練の積み重ねがしっかり身に付いているからこそ、ねらいに迫る授業が行えるのだと感じた。全体的に基礎的な力が付いており、丁寧に指導することで着実に力を伸ばせるのだと感じた。運動量もしっかり確保できていた。
- ・ 応じ技がうまくいかなかったときの話し合いの仕方について、時間の確保や考えながら修正していく場面の確保をどうすればよいかということを考えさせられた。グループ学習の大切さや相手を思いやる心を育てることの大切さを感じた。

III 指導助言では、どのような内容が参考になったか。

- ・ 剣道の授業に対する考え方、工夫、グループ活動の仕方など、剣道専門家ではなかなか思いつけない展開が見られ、勉強になった。
- ・ 攻守分離、クローズ オープンスキルのつなぎなど、明確な考えと理論のもと説明いただき、非常に分かりやすかった。今後の指導に生かせる内容だった。
- ・ しっかり声を出し、真剣な態度で学習に取り組むことと安全への配慮。また、応じ技の段階や心構え(応じ技は攻めないと応じ技ではないということ)などについて勉強になった。
- ・ 「主体的で対話的な深い学び」ができる授業展開が必要だということ。
- ・ 竹刀と簡易竹刀のバランスで、導入は簡易竹刀、狙ったところが打てるようになったら竹刀を使うとよいということ。実態に合わせて指導過程を工夫することの大切さ。
- ・ 学習の機会を保障し、攻めと守りの学習時間を確保することが大切だということ。攻めと守りを分離すると、技能向上につながり、練習したことを試合に生かせるということ。
- ・ 簡易竹刀の長さの設定理由。一足一刀の間から簡易竹刀の長さを設定したということ。
- ・ 単元計画や年間指導計画の工夫について。1年か2年のどちらかで13～15時間まとめて行うと効果が上がるということ。
- ・ ユニバーサルデザインのための授業方法、教材活用の工夫について。
- ・ 次回の学習指導要領改訂について解説があったこと。今後を見据え、授業改善に取り組みたい。

IV 授業の成果と課題について

【成果】

- ・ 生徒たちが思い切り技を打ちこむことができている。特に、女子生徒でも簡単に扱える簡易竹刀の使用は効果的だった。男女共習のよさも出ていた。
- ・ 簡易竹刀の使用が活動の活性化につながり、技を行う上でも有効であった。
- ・ 授業がユニバーサルデザイン化されており、剣道に親しむ授業が展開できていた。剣道に対する関心が高まっていたと思う。本来の剣道からは少し離れているかもしれないが、生徒たちが剣道への興味・関心をもってくれるとよい。
- ・ よく準備された授業で、安心、安全に学習に取り組めており、運動量も確保されていた。
- ・ 全員が共に考え、受容する雰囲気があり、主体的に学習に取り組んでいた。グループによる話合いも和やかに進み、言いたいことがしっかり言えていた。
- ・ 全体の基礎技能の向上が図られており、技能の定着が感じられた。この時間だけの成果ではなく、1、2年時の指導の積み重ねが生徒たちの動きに表れていた。

【課題】

- ・ 竹刀との併用をどうするか。やはり最後は竹刀での学習をすべきではないか。小学生用の軽い竹刀で重さや扱いにくさに対応できるのではないか。
- ・ 竹刀を使用することも含め、3年間を見通した指導計画の見直しが必要になってくると思う。
- ・ 課題解決に向けた話合い活動。生徒同士で話し合う内容の焦点を明確にすることで、時間の消費減や理解の向上につながるのではないか。また、技がうまくいかなかったときに、課題解決に向けた時間を確保したい。
- ・ 男女共習の場面をもう少し確保してもよいのではないか。
- ・ 簡易竹刀の活用によって出てくる問題をどう解消していくか。
- ・ 竹刀を使って行う剣道と、楽しさとのバランスをどう考えればよいか。
- ・ この授業実践を本校でどのように取り入れていくか。(指導の工夫)

V 『授業づくり研究会』に関して、ご意見を書いてください。

- ・ 剣道の授業を行った経験がなく、大変勉強になった。
- ・ よく声が出た、よい授業でした。
- ・ 研修会は、常に勉強になります。年をとっても研修が大切です。
- ・ お互いが学び合えるところがいいと思います。
- ・ このような研究会があれば、また参加したいと思います。
- ・ 体育教員が校内に一人、二人体制の学校が多くなっており、なかなか授業のことについて話をする機会がない中、このような研修会が開催されることは、とても有意義です。
- ・ 多様な意見を聞くことができ、勉強になった。また、専門的な解説をしていただき参考になった。
- ・ 授業公開までのご苦勞が伝わってきます。丁寧に教材研究をし、生徒にいかにか伝えていくか、勉強になりました。
- ・ 指導の際、つい一方通行になりがちであるが、今回のように、授業をつくるということはすばらしいことだと感じた。

II 実践事例

3 地域連携指導実践校（外部指導者派遣） 15校



管内等	関係市町教委	学校名	領域等	外部指導者
東予	四国中央市	三島西中学校	ダンス	森實 美於
	西条市	東予西中学校	剣道	谷口 睦男
中予	松山市	垣生中学校	剣道	中野 善文
		旭中学校	剣道	山内 幸雄
		北条南中学校	なぎなた	神山由香里、渡部加代子
		高浜中学校	ダンス	愛媛大学総合型 地域スポーツクラブ (18名)
		道後中学校	ダンス	
		北中学校	ダンス	
		東中学校	ダンス	
		北条北中学校	ダンス	
		桑原中学校	ダンス	
	椿中学校	ダンス		
松前町	松前中学校	ダンス	菊池 寛	
大洲市	河辺中学校	剣道		
南予	八幡浜市	双岩中学校	剣道	清水 由章



合計 15校	一般 8名、大学生 18名
--------	---------------

剣道	5校	松山2、西条1、大洲1、八幡浜1
なぎなた	1校	松山1
ダンス	9校	松山7、四国中央1、松前1



外部指導者を活用した、生徒が意欲的に取り組むダンス指導の在り方

学校名 四国中央市立三島西中学校（愛媛県）第1学年
全校生徒数 312名（男子161名 女子151名）
種目等 ダンス（現代的なリズムのダンス）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0896（28）6100
学校メールアドレス nishi_chu@.shikokuchuo.ehime.jp

1 実践研究のねらい

- （1）地域の外部指導者を活用し、専門的な知識や技能を学ぶことにより、生徒のダンスへの興味・関心が高められるようにする。
- （2）ダンスの動きを習得し、生き生きとした表現ができるようにする。

2 実践研究の概要

- （1）教師のダンス経験や専門的な知識が浅いため、外部指導者を招き、その指導を通して生徒と教師がともに学ぶことができると考える。
- （2）専門的な指導により、意欲が高まり、豊かな表現につながると考える。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（1）外部指導者との事前打合せ及び授業後の情報交換

外部指導者は、前任校でのダンスの外部指導者の方から、校区在住で外部指導者としてダンス指導を行うことに関心のある方を紹介いただいた。事前の打合せで、対象生徒を1年生とし、3年計画で継続的な指導を考えていることを伝えたところ、それを踏まえたうえで効果的な指導計画を立てた。外部指導者が普段からダンススタジオで中学生年代の子供たちを指導している経験を生かし、生徒の様子や学級の雰囲気をつかみとったうえで、各学級に合うプログラムとなっている。

（2）クラスごとで違うダンスの実施

ア ハウス・ロック・ヒップホップの3種類のダンスを、学級の様子を確認した上で、外部指導者が、それぞれのクラスが取り組むダンスを決定した。

イ クラスによってダンスが違うことで、生徒が情報交換する際の内容が増え、ダンスへの興味・関心が高められた。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 準備運動の時間を、毎回10分間確保し、ケガの防止及び柔軟性の向上に努めた。
- 2 ダンス内容に応じた準備運動を、それぞれのクラスで行ったことで、技能の習得がスムーズになり、一人のけが人もなくカリキュラムを終えることができた。

○成果の意義と今後の課題

- 1 中学入学後の初めてのダンスの授業で、専門的な指導を行えたことで、来年度以降の取組に大きな興味と関心をもたせることができた。
- 2 学級の仲間づくりを根幹にした、協力し認め合う態度を育てる必要がある。

○ 研究内容

【準備運動】

ケガの防止だけでなく、自分の体と向き合うことができた。



【基本動作】

専門的な指導により、技能を習得することができた。



【隊形確認】

意欲的に完成度を高めることができた。



【学年発表会】

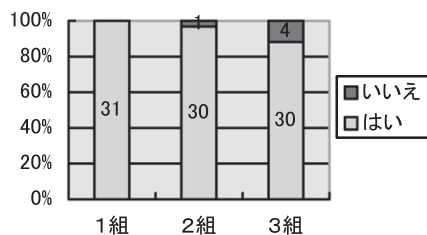
互いのよさを各クラスが認め合うことができた。



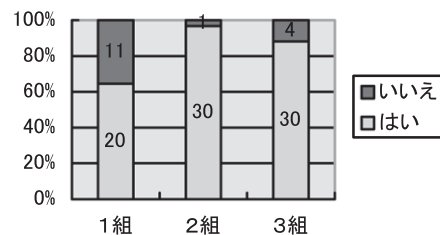
【ダンスに対する興味・関心】

表現力を高めていくためには、意欲や関心が大きく関係してくると考え、授業後のアンケートにより考察した。

Q ダンスの授業に意欲的に取り組んだ。



Q 2年生、3年生でのダンスの授業が楽しみだ。



全体的には、多くの生徒が真面目な態度で、意欲的に取り組むことができた。来年度以降への取組にも、興味と関心をもたせることができた。

【今後の取組について】

外部指導者によるダンスの授業を、3年間継続させることで、生徒の学びを深めていきたい。

保健体育科教員だけの授業展開では、到達できないところまで、生徒の意欲を高めることができ、技能を習得することができた。生徒たちの方から自然と、「先生、またダンスを教えてください。」という声も上がり、外部指導者と生徒との関係も大変良好であった。3年間を通して外部指導者によるダンスの指導を行うことで生徒の意欲や技能が高まり、生涯スポーツにつながると考える。

剣道の授業において用具を工夫し、安全で効果的に剣道の楽しさを味わうことができた実践事例

学校名 西条市立東予西中学校（愛媛県）1年
全校児童生徒数 154名（男子84名 女子70名）
種目等 剣道
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0898（66）5042
学校メールアドレス toyonishi996@yahoo.co.jp

1 実践研究のねらい

- （1）用具を工夫し、生徒の剣道への恐怖心や不自由さを和らげることによって、生徒が安全で意欲的に授業に取り組めるようにする。
- （2）外部指導者の専門的な講義や指導方法から教師自身が学び、指導力の向上を図る。

2 実践研究の概要

- （1）生徒は、竹刀で打たれることへの恐怖心や面を付けることへの不自由さなど、剣道に対してマイナスイメージをもっている。また、面の装着に時間がかかるため、技術指導の時間が削られ、効果的な指導につながらないといった課題がある。
- （2）竹刀や防具などの用具を工夫し、生徒の剣道への恐怖心や不自由さを和らげることによって、安全で安心して相手との攻防を楽しむことができるようにする。
- （3）簡易防具を取り入れることによって、効果的な技術指導ができるようにする。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（1）竹刀や防具等の工夫

- ア 生徒の恐怖心を和らげるために、柔らかい簡易竹刀を作成して使用することによって、生徒の恐怖心が和らぐように配慮した。
- イ 面の代わりに自転車用ヘルメットとゴーグル、小手の代わりに軍手を用いることによって防具の装着時間が短縮され、運動時間が確保できた。
- ウ これらの手立てによって生徒は、勢いよく踏み込んで強く竹刀を振ることができ、スピードのある技の仕掛けができるようになった。

（2）指導計画の工夫

今年度は、昨年度より剣道の楽しさである「技の攻防」や「グループ対抗戦」の時間を増やし、生徒がより意欲的に取り組めるように配慮した。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 塩化ビニール製のパイプの外側にスポンジをはめ込んだ簡易竹刀を作製した。
- 2 面と小手の代わりに自転車用ヘルメットとゴーグル、軍手を用いて頭部、顔、腕を防御した。

○成果の意義と今後の課題

- 1 用具を工夫したことにより、生徒の剣道への恐怖心や不自由さが和らぎ、生徒は安全で意欲的に授業に取り組むことができた。また、外部指導者の技術指導の時間を多くとることができた。
- 2 教師は、自己の指導力を向上させるために、今後も研修を重ねていく必要がある。